

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401764		
法人名	株式会社ハートケアライフ		
事業所名	グループホーム ハートケアライフ八軒 (1Fぬくもり)		
所在地	札幌市西区八軒5条西3丁目3番26号		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節に応じた行事を行ない、入居者様に季節の移りかわりを感じ楽しんでいただける様に工夫しています。
 畑を作り、入居者様と一緒に種まき、苗植え、草取りをしたり成長を楽しみに毎日職員と一緒に畑へでていきます。
 ベンチに座りゆったりと眺めながら遠い昔を懐かしむ環境作りを力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401764&SCD=320
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年1月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの所在地は、幹線道路のバス停に近く、商業施設も多いため、生活に便利な地区です。
 ホーム周辺は静かな住宅街であり、周りの住宅と違和感が無い建物構造に好感が持てます。
 また、近くに商店や各種施設の多いことが利用者にとって刺激のある環境となり、生活行動能力の維持に貢献しています。利用者は、外出時の挨拶や地域行事への参加などで、周辺住民の方々との接触も多く、地域の一員として連携が深まっています。ホーム理念は、利用者が地域社会に融けこみながら、家庭的な暮らしで過ごせるように支援する旨を内容とし、これに沿って施設長や職員がケアサービスに熱意を持って努力しているため、利用者の表情も明るく、職員との和やかな交流で、ホーム内は親しみと温かみのある雰囲気になっています。このため、家族も、職員の一人ひとりが感じが良く、親身に世話をしていると感じて感謝をしています。運営法人は、人材育成も重視して外部研修へも積極的に参加させ、その成果が丁寧で心のこもったサービスに反映され、利用者は安心してゆったりとした日々を過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ハートのあるふれあいと支えあい」の理念のもとに利用者の個性を生かし、その人らしく暮らして行ける様に、日々努力している。	理念は、ホーム内に掲示や職員が携帯するカードに記載し、また新人研修等で共有とし、日常業務において理念をベースとしたケアサービスに努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し盆踊り、餅つき大会、公園清掃に参加し交流している。音楽療法を月2回開催し近隣の方へお誘いしている。近隣中学生、児童会館の子供達の実習先となり利用者で交流している。	利用者は各種町内会行事へ参加し、外出時も和やかに挨拶を交わしています。避難訓練への住民参加や子供たちの慰問等もあり、地域との交流が進んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、中学生の実習訪問を通して認知症の方への支援方法をお話している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回開催、ご家族様、町内会代表、地域包括支援センターの職員さんに参加していただき、報告し評価を頂いている。そこでの意見をサービス向上に行かしている。	会議は行政及び町内関係者、民生委員等の参加を得て、2ヵ月毎定期的に開催しています。会議では、報告事項以外に活発な意見交換が行われ、運営に活かしています。	会議で避難訓練への協力要請の結果、住民の方々が参加するなど、会議開催による成果が表れています。今後は、会議の進め方や内容について、他事例を研究しながら、より一層のレベルアップを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の生活保護担当者、福祉課の担当者とは事務的な面で指導を頂いています。保護担当者の訪問調査時には日々の生活内容を詳細に報告している。市、区で開催する管理者会議には必ず参加している	施設長や管理者は、必要に応じて随時、行政担当窓口を訪問して各種報告、相談や情報交換を行い、ホーム運営に活かすように努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設置し定期的に会議を開催し、現在のケア内容で拘束に繋がるものがないか話しあい確認を行なっている。玄関の施錠は夜間帯のみ行なっている。	ホームでは身体拘束委員会を組織し、関連マニュアルを整備すると共に外部研修へも職員を派遣しています。玄関の施錠は夜間帯のみで、ユニット入口には施錠は有りません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員を設置し定期的に会議を開催し現在のケア内容で虐待に繋がるものがないか話しあい確認を行なっている。研修にも参加し、会議で内容を報告し全員が共通認識をもち防止に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が理解されているとはいえない。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明して同意を得ている。契約解除に至る場合は家族と対応方針を相談している。					
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や日常生活の中での不満・不満を聞き改善していくように話し合っている。家族様の訪問時にも話しやすい環境に努めている。	家族来訪時の話し合い、介護日誌のコピー送付、電話等で報告や意見等の把握をしています。意見等は、内容に応じて記録し、協議しながら改善を図っています。	利用者の様子は、家族来訪時以外に介護日誌のコピーを送付していますが、内容が細部にわたるため、分かりにくい面もあります。日頃の暮らしぶりを職員が要約（数行でも可）して手書きし、送付するなどの方法の検討を期待します。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を定期的で開催している。運営責任者も毎回参加し職員が何でも言えるような関係づくりをしている。	法人代表、施設長、管理者は、日常業務の中で職員の意見等を聞くように努めており、定例会議においても話し合うようにしています。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のために支援、取得後の資格手当での付与を行なっている。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは全職員が積極的に参加できるようにし、研修内容を報告し全員が情報の共有ができるようにしている。内部研修計画書を作成している。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に管理者会議やグループホーム協議会の勉強会に参加しサービスの向上に努めている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、他事業者、医療機関から情報を得て、本人の生活習慣や意思を尊重し、職員全員で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に話しあい、本人のこと、家族の意向をお聞きして安心して入所できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護面だけでなく、医療面では専門医にかかっている場合、往診を依頼したり福祉用具が必要な場合は説明をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員で過ごす時間を大切にしながら、共に食事 おやつ作り 掃除 畑仕事をし楽しく過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時以外でも電話で細かな状況を報告し、一緒に考えたりしながらお互いの信頼関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人がいつでも来訪しやすいような雰囲気づくりをしている。電話をしたい等の希望に対して支援している。	職員は、家族や知人が来訪しやすいよう気配りをしているため、家族等の訪問が多いホームです。また、利用者の希望により、馴染みの場所への訪問も支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクでは入居者同士が協力できる内容を取り入れている。孤立しないように職員が間に入り良い関係ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在では相談 支援にはいたっていない			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を引き出すような会話を心掛けています。上手に伝えられない方は職員間で話しあい確認している。	利用者の日常行動から、思いや意向を把握するようにしていますが、困難な場合は職員同士で相談し、利用者本位に対応するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を通してや、本人のこれまでの生活環境について情報シートを活用し共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の行動を把握し本人の出来ること出来そうな能力を職員間で話しあい把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を取り入れカンファレンスを行い、本人の状況を確認し作成している。状況の変化時には再アセスメントと行い作成している。	ケアプランは、医療機関や家族と十分に相談して作成し、利用者の状況をモニタリングしながら随時見直し、会議等を通して全職員の共有としています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に即した、ケアプラン実行表を作成記入している。行動 言動は日誌に記入して見直しにつなげられるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	報告、連絡 相談を密にして本人 家族の状況、要望に応じて対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に活発に参加したり、火災防災訓練には地域の方にも参加して貰っています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月2回の往診と24時間連絡可能な体制をとっている。必要に応じて歯科往診も行っている。	内科の定期往診と歯科及び外科の希望による往診が実施されていますが、家族や利用者の希望により、かかりつけ医の受診も自由です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価			
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を毎週受けており、利用者の状況を細かに伝えて相談出来る関係が出来ている。						
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護情報を提供し入院中も病院を訪問し情報交換し退院後の生活が安心出来る体制を整えている。						
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族にホームで対応できるケアについて説明している。体調の急変、入退院などで状況が変わった際も話し合いを持ちかかりつけ医とも密に連携を図っている。	重度化や終末期における指針を作成し、家族へ説明して同意書を得ています。職員も勉強会や会議を通して、その内容を共有しながら、支援体制を整えています。					
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て非難訓練時に説明を受けている。緊急マニュアルを作成し内部研修を行っている。						
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年2回非難訓練を行い地域住民に参加していただき協力体制を築いている。	夜間帯訓練を含め、年2回の避難訓練を実施しています。運営推進会議でも訓練への協力要請をし、訓練時に住民の方々が参加するなど、災害対策に努力しています。	ホームとして、災害対策に積極的に取り組んでいますが、今後は災害時に備えて食料品や防寒具、トイレなどの備品の準備を期待します。				
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援									
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳を持って対応し入居さんの性格を理解しその方に合った対応をしている。	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損なわないように配慮し、ケアプランなど、個人情報も適切に管理しています。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表現できるように声掛けを工夫したり、本人の分かる言葉に置き換えて自己決定できるようにしている。						
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、個人の時間を大切に、外出や買い物に関しては希望に添える対応をしている。						
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を尊重しその人らしさを保てるよう支援している。希望があれば訪問美容師に来て貰っている。						

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の希望の物を取り入れている。出来る方には食事の準備や片づけを手伝ってもらっている。	利用者は、簡単な調理、食事準備や後片付けを手伝い、献立も利用者の希望が反映されています。食事は、職員と共に楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食工夫された食事を提供している。食事形態は個人に合わせて提供している食事量 水分量を記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き 義歯の洗浄を行って貰い、出来ない方には職員が毎食後行っている。義歯は洗浄剤に毎晩付けて衛生に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り職員全員が確認できるようにし、早めに声掛けを行いトイレでの排泄が出来るようにしている。夜間もトイレで排泄が出来るように細かに誘導している。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりに合わせた誘導などを丁寧に行い、できるだけおむつの使用減やトイレ外での排泄を無くすように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すように水分や乳製品の摂取に心がけている。体操や歩く機会を増やして身体を動かす工夫をしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調を見ながら出来る限り個人の好みに添って入浴が出来るようにしている。	入浴は、週2回以上を基本とし、希望者は夜間帯を除き随時入浴可能です。入浴を拒む場合は、根気よく説得していますが、無理強いをせず、他の日に入浴しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を多くして良眠できるようにしている。室温調整を行い気持ちよく眠れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用が把握出来るように記録し、申し送り確認している。服薬時は最後まで飲み込んだかを確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の性格を考えたり、出来る事を把握して日々の暮らしに楽しみが持てるように工夫している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期以外は毎日近くの公園や近所のお庭を見に散歩へでています。畑があるので気軽に手入れをしにでています。ご家族参加の外出レクがあります。	散歩や買い物、近所の庭見学、町内行事に参加したり、また、冬期間はショッピングセンター訪問など、できるだけ戸外に出かけるようにしています。車両による花見など、遠出も実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は所持していただいても他の方の場合はホームで管理し必要に応じて本人に渡して支払いが出来るように支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合はその都度対応している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りを取り入れてます。温度、湿度に気を配り気持ちよく生活できるように工夫しています。	ホーム内は清潔感が有り、明るく住みやすい構造です。共有スペースには写真、手作り作品、季節の飾り、鉢植えなどがあって、温かみと親しみのある家庭的な雰囲気の中で、利用者はゆったりと過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはベンチを設置し一人でゆっくりと過ごすなど自由に使って貰えるようにしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇 風景画などを持ち込んでいただき居心地よく過ごせるようにしている。	居室は十分な広さが有り、大きな窓で明るく、清掃も十分に行われています。室内には、利用者の希望する家具類等が自由に持ち込まれ、居心地良く暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差がなく廊下は手すりが設置されている。浴室には手すりが沢山設置されている。			